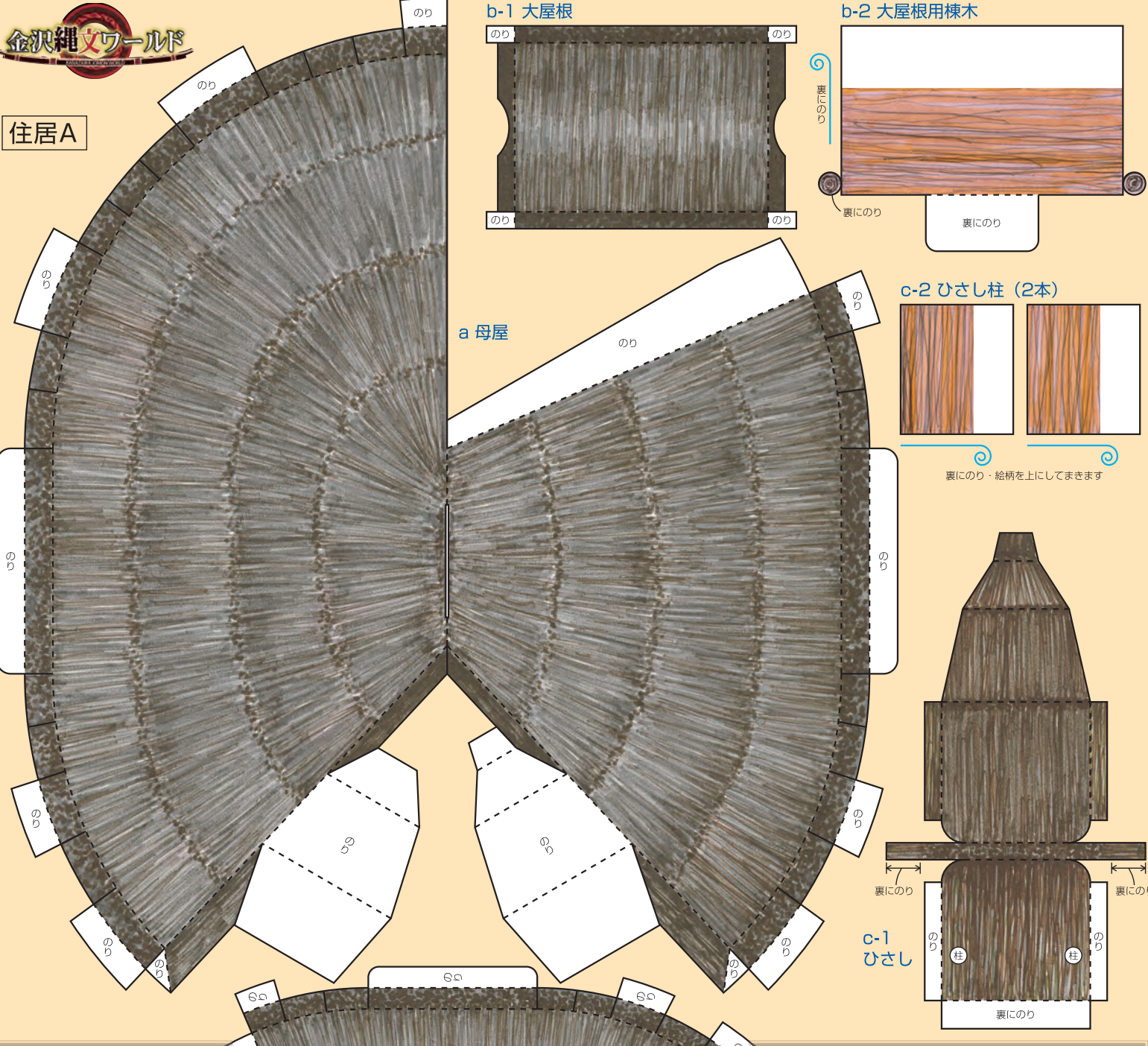
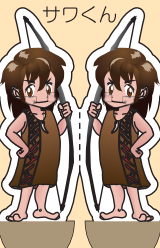
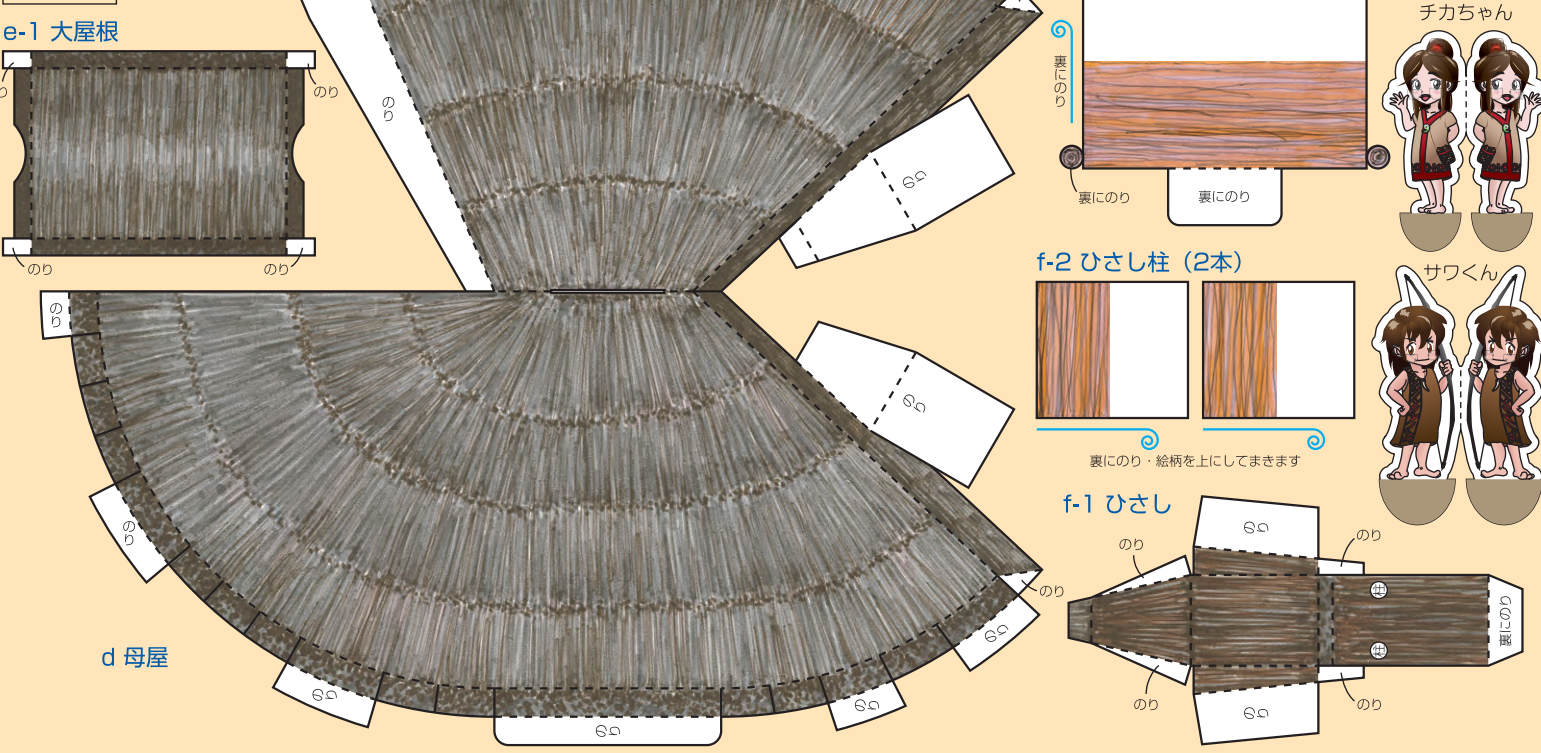


住居A



住居B



たてあなしゆうきよ
竪穴住居
縄文時代から鎌倉時代くらいまで住居として使われていました。地面に縦方向の穴を掘り、地面より低い位置に床をつくって屋根を葺いていました。住居の中央には石を組んだ炉がつくられていました。

